

Contents

支部長挨拶	P2
オビニオン	P3-4
支部長漫遊記	P5-8
もよおし(建築塾)	P9-11
とりせつ	P12
トビックス	P13-14
よかもん	P15
あのところ	P16-17
わさもん	P17
もよおし	P18
委員会報告	P19-24
地域会活動報告	P25-36
編集後記	P37



公益社団法人 J I A
日本建築家協会九州支部

BULLETIN Kyushu BRANCH

The Japan Institute of Architects Kyushu branch

NOV.2022

九州で活躍する建築家のための情報誌

支部長挨拶



松山 将勝（九州支部長）

暮秋というにふさわしい気候となつてまいりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

この秋は、コロナ禍で延期されていた九州支部事業が立て続けに開催されました。

初めに9月16日、17日の2日間に渡って開催されたJIA九州建築塾からご報告致します。

今回で22回目となる建築塾は、設計事務所に所属する若い世代の所員を対象とした教育プログラムです。熊本地震から6年を経過した今、熊本がどのように復興の道を歩んできたのか。その軌跡を辿る事で見えてくるもの、そして未来へつないでいくもの。それらを議論する場として今回、熊本の阿蘇で建築塾が開催できた事は大変意義深いものでありました。九州全域から11名の塾生が参加し、講師は災害公営住宅のプロポーザルに果敢に挑み、実績を残された熊本地域会の原田展幸会員と長野聖二会員のおふたりに務めていただきました。初日は南阿蘇村西部団地の視察や、現在工事中である震災ミュージアムの現場見学、その後建築塾の会場にて、災害公営住宅のプロポーザルから完成に至るまで講師のおふたりが実践して来られた内容をレクチャーいただき、同行した私たちJIA会員にとっても大きな学びの場となりました。

2日目の午前中には、若い世代が考える災害公営住宅を発表してもらい、講師のおふたりには現実の経験も交えながら大変貴重なクリティークをしていただき、建築の専門家として災害復興にどう向き合っていくか。塾生にとっては深く考える機会であったと思います。また、今回の建築塾に合わせて支部役員会も同時に開催致しました。長年継続してきたこの事業の重要性を、改めて認識する機会を設けていただきました熊本地域会の皆様から心から御礼申し上げます。

次に、9月23日、24日に北九州市で開催された九州支部大会についてご報告致します。支部大会は2年に1度の開催ですが、2018年に鹿児島県奄美大島で開催されてから4年ぶりの開催となりました。今回の支部大会は北福岡地域会が長年取り組んで来られた、日韓合同学生ワークショップとの同時開催という事もあり、素晴らしい支部大会となりました。初日は、ワークショップの講師を務めていただいた2021年JIA新人賞の木村吉成氏の講演会と、北福岡地域会の皆さんによって地域色豊かなウェルカムパーティーが開催され、とても充実した時間を過ごさせていただきました。2日目のメインイベントとなる日韓合同学生ワークショップでは、日韓7大学の9チームによる作品発表がなされ、学生たちが考える「2100年に建つ建築」は、どれも熱量に溢れた作品揃いで見応えのある発表会となりました。午前10時の開始から18時の表彰

式まで、各大学の発表者とクリティークの木村吉成氏によって白熱したディスカッションが交わされ、学生諸君にとっては将来への糧となる経験であったと思います。この事業をここまで育てて来られた北福岡地域会のご尽力に改めて敬意を表したいと思います。参加者は支部会員54名、日本学生34名、韓国学生30名（WEB参加）の総勢118名と大盛況の支部大会となりました。コロナ禍の中、安全対策には大変なご苦労もあったかと思ひます。支部大会を実現していただきました北福岡地域会の皆様に、この場を借りて改めて深く感謝申し上げます。

さらに支部大会の翌週には、9月28日、29日で福岡地域会主催による建築展が開催されました。今回はマリンメッセで開催された九州ホーム&ビルディングショーにJIAが招待され、建築展と講演会をセットで開催するという新たな試みでしたが、2日間で600名を超える来場者数は大きな成果であったと思います。課題も見つかった建築展でしたが、私たち建築家の活動が一般市民に深く浸透していけるよう、志を共にするJIA仲間と共に今後も試行錯誤しながら継続して参ります。

少し前になりますが7月23日には北福岡地域会に出向き支部長漫遊記を開催致しました。北九州を拠点とする若手建築家4名との建築議論は実り多き時間でした。詳しくはこの後のレポートをご覧くださいと思います。

支部事業報告の終わりは、10月4日、14日に実施したエコルサポート事業です。今年も福岡地域会のメンバーで東住吉小学校に出向き、小学生に建築の楽しさを体験してもらおうワークショップを開催致しました。この中から建築家をめざす子どもたちが現れる事を期待し、これからも地道な活動を続けて参ります。

最後に、10月20日～22日に沖縄で開催されたJIA建築家大会には、九州支部から50名を超える会員の皆様にご参加いただき感謝申し上げます。

全国大会のレポートは次号にてご報告させていただきますが、九州支部から多くの会員にご参加いただいた事に対して、沖縄支部より感謝の意が届きました事をこの場を借りてご報告させていただきます。

この秋はJIA活動の復活祭とも言えるほど目まぐるしい日々が続きましたが、また皆様とお会いできる機会を楽しみにしております。

朝晩は寒さがしみる季節の変わり目でございます。会員の皆様におかれましては、体調など崩されませぬよう、くれぐれもご自愛ください。

JIA九州支部大会in北九州2022



後藤 友哉（北福岡地域会）

2020年初頭から世界規模で新型コロナウイルスによるパンデミックが拡大してから、3年ほどの月日が過ぎました。第7波と呼ばれる感染流行にも人々は慣れ、コロナ過前と同じように各地ではイベントも開催され、幾分か日常が戻ってきたようです。大会当日は会場となる北九州国際会議場に隣接するミクニワールドスタジアムで、「北九州ロックフェスティバル」が盛大に開催されていたぐらい北九州市は賑わっていました。

2022年9月23～24日に北九州国際会議場において、JIA九州支部大会及び建築展24日韓合同学生ワークショップ（学生WS）が開催されました。実に4年ぶりの開催。筆者はJIA入会后間もなくパンデミックとなり、毎年行われている九州支部大会に参加できずにいた一人でした。今回同時開催となった北福岡地域会による学生WSは、パンデミック後もリモートという新しい形で毎年行われてきました。今年も2021年JIA新人賞を受賞した木村吉成氏（木村氏）をお招きし、九州支部大会による講演会及びウェルカムパーティー、翌日は木村氏による学生WSの講評会と盛りだくさんの内容となりました。

1日目となる九州支部大会のテーマが「未来への結末」。初めに松山支部長による主催者挨拶がありました。木村氏への歓迎のお言葉、九州各地から参加した会員へ向けて結束を示す温かいメッセージで幕を開けました。

来賓は北九州市から建築都市局指導部部長有吉様と都市再生企画課係長河野様を迎えました。河野様からは北九州市が掲げる「2050まちづくりビジョン」の内容のご説明をいただきました。今回のテーマが「未来への結末」というものであり、持続可能な都市形成のための壮大なビジョンをもつ北九州市と共有できる内容でした。実現のためには、建築に携わる者として将来のまちの姿に共感し、一般市民にも広く知れ渡るようJIAを通して活動を続けること、また官民連携の必要性と重要

性を感じました。

大会のメインとなる木村氏によるセミナーは「生きていくための場所をどう設計するか」というテーマでした。事務所での活動や今までの設計について紹介していただきました。筆者は木村氏の「能動的に都市に関与していく」という言葉が心に響きました。それは実体験として感じたからです。木村氏とは本イベント前に数回面会させていただき、京都にも訪問しました。その際は、JIA新人賞を受賞した「houseS/shopB」と、現在は木村松本建築設計事務所のオフィスとして構える「旧本野精吾邸」を視察しました。

後者の「旧本野精吾邸」は1924年に竣工したコンクリートブロック造2階建。京都市の住宅地ど真ん中にあります。現在は今までの姿を継承し、1階は開放され社会との関りを持った使われ方をしていました。2階は設計事務所として使われています。竣工後100年近く存在していた住宅は、木村氏の手によって地域と密接な建物に生まれ変わっていました。

前者の「houseS/shopB」を訪れた時は、筆者は見学者として見た感覚よりも、利用者としての感覚を強く感じました。1階の店舗部分ではレジ廻りで地域住民による立ち飲みが開かれており、到着まもなくビール片手に話し込んでしまったのを覚えています。敷地が狭く極限までに建築されており、利用者は歩道にはみ出ることも度々。物理的にも、感覚的にも都市との関りの強さを表現された建物でした。



ウェルカムパーティーにて

割愛させていただきますが、それ以外にも木村氏の設計プロセスやアプローチについて、多くの写真スライドを用いて濃密なご講演をいただきました。

講演の後は小倉の海を眺めながらシーラウンジにてウェルカムパーティーが開催されました。ケータリングサービスに加えて、各地域会会長から地元のお酒や食事の差し入れがあり、三三五五和やかな雰囲気です。楽しむことができました。

2日目には早朝から学生が会場及びPCの前に集まり、JIA会員も参加の上、「建築展24日韓学生合同ワークショップ」が行われました。参加校は日本から「九州工業大学」「北九州市立大学」「九州産業大学」「日本文理大学」の4校5チーム、韓国から「釜山大学」「東亜大学」「慶星大学」の3校4チーム。北九州市小倉北区の紫川周辺を対象敷地に「2100年に建つ建築」という課題です。本ワークショップは7月16日に課題発表、9月3日に中間講評会のプロセスを経て、当日は4人の審査員によるクリティークを受けました。最終講評会を迎えるまで2回にわたり木村氏によるクリティークがあり、各チームそれぞれがブラッシュアップして最終講評会を迎えました。時には松山支部長の辛辣ながらも愛のある講評があり白熱した会となりました。最優秀賞は「釜山大学」が獲得。各チームが例年に無くレベルの



模型をクリティークする木村氏と松山支部長

高い作品を並べ、審査員の評価はどれも高いものでした。北福岡地域会による建築展は24回を迎えております。会場のロビーにはその歴史を物語る今までのリーフレットが展示してありました。長い歴史は学生の研鑽の場であり、日韓の友好の架け橋です。このイベントは社会への貢献と関りを広げ、国際交流の大切な機会としてこれからも続けていかなければならないと感じました。



学生の模型や最優秀賞釜山大学との記念写真、懇親会風景

無事に終わった支部大会も懇親会を迎えて安堵した会員が多く、美味しい料理とお酒をお供に一息。筆者は運営側として会員をもてなし、学生を含め多くの方々に喜んでもらえたと思っております。これからもJIA会員として、一建築家として、社会との関り、つながりを大事にし、今後の活動につなげて参ります。

最後にワークショップのご指導、ご講演いただいた木村吉成様、またご支援いただきました松山支部長をはじめ各地域会長の皆様、無事大会が執り行われたことに心から感謝申し上げます。



支部大会集合写真

支部長漫遊記 IN 北福岡



塩釜 直人（北福岡地域会）

2022年7月23日 小倉のコワーキングスペース秘密基地にて第6回支部長漫遊記を開催いたしました。サロンをイメージする会場で、ゆったりとお酒でも飲みながら建築論を語り合えるように会場選定し、登壇者も4名に絞りアットホームな雰囲気づくりを心掛けました。

登壇者は、橋迫弘平氏（古森弘一建築設計事務所）、中條雅文氏（中條雅文建築設計事務所）、西園誠氏（東畑建築事務所）、首藤徹郎氏（スズキ設計事務所）。福岡で活躍されている30代～40代の皆様に建築作品や建築論を語って頂きました。

【松山支部長 挨拶】

この支部長漫遊記は、建築の議論を深めていくことを目的としています。仲間が集まるとお酒を酌み交わし激論が交わされる訳ですが、こういった公の場では中々議論が交わされないのが残念に思っています。JIAが率先して若手に議論の場を与えることによって、最終的には九州全体に広がっていくことを期待しています。

【橋迫弘平氏(古森弘一建築設計事務所)】

古森設計で心掛けているのは、「いい建築をつくる、楽しむ、儲かる」を意識して活動しています。この3つのバランスが重要と思っています。

「いい建築をつくる」について、「ミリカローデン那珂川リニューアルプロジェクト」を説明しようと思えます。このプロジェクトは図書館・生涯学習センター・文



オンラインで登壇の橋迫氏

化ホールとの3つが複合した施設のリニューアル工事が段階的に進んでいます。エントランスホールの改修前は、市民の居場所が無い空間となっていました。提案したのは、ミリカのアイデンティティとなるミリカの木を設けたこと、既存の仕上げを撤去したこと、そして沢山の家具を設置し居場所を創出したことです。

ミリカの木とは、那珂川の森で75年前から大切に育てられたヒノキで作ったシンボルスペースのことです。那珂川の山の中に入り、切り出されたヒノキを目の当たりにした時、那珂川の歴史を未来へ継承する形としてミリカの木（ヒノキ）を大切に生かそうと感じました。ミリカの木をデザインを模索していく中で、東京電機大学の笹谷准教授と元アランプのエンジニア・ラムさんに依頼し、東京電機大学の実験棟で強度実験を行いました。その際、2箇所ある入り口に施そうとしていたスチール補強は、実証実験の結果不要と分かり全て木造できました。ミリカの木完成後、ミリカのカフェに着手しました。カフェにもミリカの木を使用し何か出来ないかと考え、50角のミリカの木を格子状に組み合わせるにあたり、仕口は3本の木を切りかき組みあがるディテールをモックアップを作り検討しました。

次に、エントランスの壁に挑みました。当初計画は、壁に仕上げを施す予定でしたが、既存仕上げを撤去したところ躯体の状態が綺麗だったので、現場進行中でしたが躯体を見せるように変更しました。天井は、特定天井でしたので、撤去し設備配管とともに黒く塗装しました。配管を避けながら照明やスプリンクラーを設けるために、一つ一つ実測しながら進めました。本件を進めるにあたり参考にしたのは、藤本壮介氏の白井屋ホテルでした。白井屋ホテルは、既設のコンクリートを残す/修繕するを状態により一つ一つ判断しており、ミリカも同様に行いました。床は、既設シートを剥がし研磨仕上げとしました。

完成後、ミリカの木や古材仕上げとした部分と、改修した部分とのコントラストの融合がよいバランスになりました。テキスタイルデザインで安東陽子さんに加わって頂きました。西日を遮断すること、ガラス面が大きく

外部から目立つのでリニューアルを視認化させること、そして木漏れ日のような光の空間を実現すること求めました。布は網状の生地をレースで挟む3枚構成になっており、柔らかい光が実現できました。

音楽ホールの改修では、特定天井改修と椅子の取替を行いました。壁・天井は黒く塗り、椅子是那珂川のシンボルツリーの山桃をイメージした赤、森林をイメージしたストライプの生地にしました。劇場横のトイレも、劇場のイメージを踏襲し、黒基調でまとめ照明デザイナーの岡安さんと協働しました。

業務にはなかったのですが、出来上がった図書館をどう運営するか議論を始めてます。ハードが完成してもソフトが変わらなければ変化がない、九州大学の田北さんやテツシンデザインの先崎さんと行政を巻き込んで「ミリカの未来」という運営会議を行ってます。8月には、一般向けのワークショップを開催します。設計者がどこまで携わるかが難しいところですが、「設計者だからできること」を模索し敢えて口出ししています。

次に「楽しむ」ですが、「おもしろい人と仕事をやる」という事だと思います。例えばミリカローデンで言えば、図書館アドバイザーである森田さんや先程の安東陽子さんであったり様々な方々と協働することで（どの方も常に新しいものを生み出そうというモチベーションの高い方ですので）新しい発見や出会いが生まれ、それが人生の楽しみになっています。また、9年前から事務所に学生を招いて勉強会を、毎月開催（既に66回）しています。今でも多くの学生が集まっていて楽しい場になってます。最後に「儲かる」ですが、一番大切なことだと思ってます。いいものを作っても、ご飯が食べられないと意味がない。国交相の算定基準などを用いるなどして施主に交渉し設計料をしっかりと頂くようにしています。（笑）

〔松山支部長〕

ミリカローデンのプロポーザルを勝ち取った要因を教えてください。

〔橋迫〕

いかに相手が望むものの一歩先を提案するかだと思います。プロポーザル初期に分析をかなり行って、文面に書かれていない文脈を読み取り提案することかなと思います。

〔松山支部長〕

今言ったことが本質だと思っていて、弁護士会館プロポを勝ち取った時に掴んだこと、古森事務所への期待感や、斬新なデザインではなく運用側が未来が見える建築のプロセスや運用への提案など、特別な愛（想い）を感じる。ミリカでも役所の心を掴みチームになっている。相手へ魅力の伝え方だとか、協働者にしても費用がかかるし、「ミリカの未来」でも人件費がかかる。それでも儲けを出せるのがすごい。相手を魅了する秘訣はなんですか？

協働者や色んな人を絡めない方が、本来パワー要らず、設計し易い筈だが、逆に巻き込むことで様々なアイデアや経験値が生まれる。色んな人が居ないと楽しめなくなっているのですね。

〔橋迫〕

古森氏の人柄であったり、相手の懐に入るのがうまかったり、相手に対しての想いが強いです。また協働者とのパワーバランスが、いい緊張感を生んだりアイデアを生めてると思います。有難う御座いました。

【中條雅文氏(中條雅文建築設計事務所)】

2018年に若松ゴルフクラブのグリーン改修をゴルフ設計者協会の中田浩人氏が行った際、クラブハウス改修設計とあずま屋設計を行いました。昭和52年に建設されたクラブハウスの食堂は、厨房の動線が悪くコンペルームもない状況で、さらにコースで食事を提供していた茶店を解体し食堂に集約することになりました。厨房バックヤード設置による食事動線の最適化と、厨房改修、コンペルームの新設、木質基調の内装への改修を行いました。



プレゼンをおこなう中條氏

また、あずま屋は解体した茶店の機能を一部引き継ぎ、待合とトイレの機能を求められました。モチーフは、アメリカの住宅スタイル「ドックトレット」で、「ドックトレット」というのは、2つのログキャビンからなり、1つのキャビンは調理と食事に使用され、もう1つはベッドルームなどのプライベートな生活空間として使用されており、その間の軒下空間が特徴です。レーモンド自邸の半屋外空間も同様です。そのドックトレットスタイルを用いました。半屋外空間を待合とトイレの間に配置し、空気と視覚の通り抜けを重視しました。

〔松山支部長〕

あずま屋が可愛いですね。構造フレームや内装への解き方に提案が欲しかったですね。

レーモンド自邸は構造体表しをデザインしています。そのような解き方が欲しかったですね。外観がかわいいね！

〔中條〕



会場の様子

構造については、垂木の先端を細くすることに苦心しました。軒の出は1200。屋根は外断熱としていて、外観でわかるように屋根段差を付けてます。外壁は羽目板にセントアンドリュースのグリーン塗装にしています。

【西園誠氏(東畑建築事務所)】

現在入社11年目35歳です。本日は、熊本の益城病院を説明します。精神科210床の病院です。熊本震災で被災した復興プロジェクトで、川津さんとJVで受注した物件です。コンセプトは、「1.病院を地域に開く・2.ユニット型・個室中心病棟の実現・3.震災の教訓を活か



プレゼンをおこなう西園氏

す」です。これは、病院の理事長から示されたものです。

「病院を地域に開く」で考えたのは、外構と外観と外来部門のプランニングです。敷地の中央に鉄塔が立っているのが特徴です。その鉄塔部分を緑化して遊歩道を作り「ましきの森」としたり、芝生広場「もやい広場」では夏祭りを催したり、積極的に地域コミュニティを図る計画としました。外観は、鉄格子イメージの払拭、病院らしくないデザイン(脱均質的なバルコニー)、保護室を9mキャンチレバーでポイントデザインとしました。また、有孔折半越しのライティングで地域の憩いとなる夜景づくりを行いました。1階の外来は、病院と地域の接点ですが、そこに「風のテラス」というホールを設け、地域の方が音楽イベントを行ったり多目的な空間となっています。また、一筆書きの外来診察動線とすることで患者同士が顔を合わせないプライバシー対策とし、2つのゾーンに吹き抜けを設け、2階の管理ゾーンから見守りができるような計画をしました。

「ユニット型・個室中心病棟の実現」では、H型平面形状とし12人を4ユニット配置で居住性と管理性の充実を図りました。精神科では珍しいですが、スタッフ詰所をオープンカウンターと見守り可能としています。保護室は人の尊厳を守りながら、堅牢性や機能性を兼ね備えた計画としています。

この物件は、理事長先生が非常に明快なコンセプトを持っていて、それに対して建築でどのように答える提案ができるか試行錯誤しながら挑んだ案件でした。

〔松山支部長〕

210床で4病棟で6層ですと、スタッフ数が多くなるがどのように決まったのですか？

精神科は、予期せぬことが起こるので、各階の連携はどのように対処してるのですか？

個室率が50%というのはすごい数字で、見守りがしにくくかなり大変です。スタッフから反対が出なかったのですか？

病院の経験が初めてで、このプランニングやレベルは凄いですね。組織事務所の強みかもしれないが、若干30歳で担当したのはすごいですね。

病院建築は病院らしさがどうしても出てしまう。その脱却が鍵だと思う。

〔西園〕

建築コストが決め手でした。

各階の連携ではなく、フロアごとの連携です。

個室率を上げたいのは、理事長の想い。病院全体に理事長の考えを実現したい気風がある

病院は初めての経験でした。永田先輩と議論しながら進めたので、よかったです。病院らしさから脱却したいが、病院らしさも必要だというせめぎ合いがあった。

【首藤徹郎氏(スズキ設計事務所)】

思い入れのある作品と最近竣工した作品を発表します。まず、最近竣工した作品ですが、9階建てのテナント付き賃貸マンションGRACE HAPISAという物件で、西小倉のレクサスの交差点に面しています。計画にあたり交差点に建っている建物の中で、軸線に対して45度振って

建っている既存マンションが町並みを害していると感じました。スズキ設計で教えてもらっている中で、建築で街を作ろうということで、本物件で街を整えなければと思いました。施主がアミューズメントを営んでおり、「暮らしに遊びと優雅さを」をコンセプトとして提案しました。また、乱立する賃貸マンションで選ばれるために、他物件との差別化を図るプランニングを行いました。各階のプランに様々な暮らしの仕掛けを提案し、最上階のメゾネットタイプは室内に設けた吹抜から外部の吹抜まを見れるような楽しい住戸プランとしました。外観ではいわゆるマンションらしさを脱するよう壁面率を増しバス通りへの非生活感を演出することに苦心しました。基壇部のテナントは、2階部分に表通りに向けた共用空間を設け、ゆとりあるスペースをテナントに提供することで、店舗誘致競争に打ち勝つ計画としました。

思い入れのある作品としては、竜光保育園という物件です。コンセプトは、「遊具のような園舎」です。廊下ではなくかくれんぼできる「森のみち」を作り、保育室は真四角はなく自然界の庭にいるような、園舎すべてが遊び場になるように設計しました。

これからのビジョン

これまで10年設計して新建材やデザインに対しての疑問が浮んでいるところです。その違和感が何かを見つけていきたいです。

〔松山支部長〕

表層だけの言葉(体験)ではなく、自分の力で共感させることが大切。これからの10年が大事にして欲しいです。建築の作り方、マンションでもCLTの手法も模索していくなど自由に頑張ってください。



プレゼンをおこなう首藤氏



支部長と4人の登壇者

第22回JIA九州建築塾 inくまもと

第22回JIA九州建築塾 inくまもと が以下の日程で開催されました。

9/16 (金)

11:00 熊本駅集合

13:00 災害公営住宅 南阿蘇村長陽西部団地見学

(株) ライフジャム一級建築士事務所
+ (株) トポスペース建築研究所
(第25回アートポリス推進賞選奨受賞)

14:30 震災ミュージアム工事現場見学 (o+h, 産鉦設計JV)

16:30 ホテルグリーンピア南阿蘇到着

17:00 レクチャー

講師：長野聖二氏 (株) 長野聖二建築設計處
原田展幸氏 (株) ライフジャム
一級建築士事務所

18:30 懇親会

20:00 作業開始

9/17 (土)

7:30 朝食

10:00 提案発表＋クリティーク

12:30 終了

13:00 解散

※今回の建築塾は1泊2日の日程という事もあり、課題は事前課題として出しており、当日は案をグループで持ち寄ってまとめていくという作業時間とするようにしております。

コロナで2年間延期した後の3年ぶりの熊本での開催となりました。

熊本地震から6年という歳月がたった被災地をみていただく事、アートポリスコンペになった震災ミュージアムの工事現場をみていただく事、地震被害で家を失った人が住む災害公営住宅の施工実例を確認して、塾の課題として災害公営住宅に取り組む事を塾生に行なって頂きました。

塾生は、九州各地から設計事務所に勤務する若い社会人や大学生の11名が参加してくれました。それに加えて

林田 直樹 (熊本地域会)



南阿蘇村長陽西部団地にて参加者集合写真

JIA九州支部役員9名と熊本地域会会員10名、講師2名の総勢32名で塾生と一緒に現場見学等同行いたしました。

災害公営住宅の南阿蘇村長陽西部団地では、実際に設計を行った(株)ライフジャム一級建築士事務所の前田氏から、計画概要について説明を行って頂き、住宅という個の建築の集まりであるが、その中でコミュニティ形成ができるような計画の重要性を説明頂きました。長陽西部団地は、高低差処理を兼ねたスロープ状の遊歩道が住戸間にある共用空間である「間守土間」を通りながらみんなの広場に繋がるという計画で、動線操作でコミュニティ形成を計る手法が用いられていました。配置計画も南側向きに平行にずれながら配置され、良好な住環境が形成されていました。実例見学後、塾生の課題敷地である長陽西部団地横の空き地を提案するグループで見学し、南阿蘇の雄大な自然環境の中での建築的回答をグループ間で協議する姿が見られました。

その後は、震災ミュージアムの工事現場に移動し、基礎工事の段階の現場見学と、設計者であるo+h(産鉦設計JV)のスタッフで現場監理者の坂野さんから、震災ミュージアムのコンペからの変遷や構造の概要、素材の選定内容等をレクチャー頂きました。コンペ時は木造での計画から、実施設計完了時にRC、S、Wの混構造に変化したものの、形態自体は



震災ミュージアム工事現場視察

コンペ時の案に近い形で工事に着手しており完成が非常に楽しみな建物です。また、28才にして現場監理者を一人で努める坂野さんに驚いたと共に、熱い思いを持って現場を切り



長野氏によるレクチャー風景

盛りする橋本建設の橋本さんをはじめとした現場監督の方々の姿に感激し、塾生もJIA会員も皆刺激を受けてる様子が見られました。

ホテルに到着後は、(株)ライフジャム一級建築士事務所の原田氏と(株)長野聖二建築設計處の長野氏による設計した災害公営住宅についてレクチャーを行って頂きました。お二人とも数多くの災害公営住宅の建築に携



深夜の作業風景

わられており、プロポーザルコンペで切磋琢磨してきた状況をコンペ案と建築実例をもとにお話頂きました。あるプロポーザルコンペでは原田氏のチームが勝ち、あるプロポーザルコンペでは長野氏のチームが勝つという競合してきた経緯とそれぞれの提案を「個と群」の関係性からお話頂き、提案をまとめる前の塾生の参考になっておりました。

夕食後は、塾生は事前課題で考えてきた案を持ち寄り、女性4人のAチーム、男性4人のBチーム、男性3人のCチームに分かれて案をまとめていく作業に入りました。夜8時から提案発表の翌朝10時まで14時間しかなく、全チーム寝ずに取り組んでおり、男性3人のCチームは各自の意見をまとめるのに時間がかかっているように見えました。実際、夜中2時頃まで案をまとめるのにかかったよ

うです。支部役員や熊本地域会会員も協議している様子を見たり、案を聞いている様子が見えつつも短時間でまとめる必要があるため口を出すのは控えているようでした。

翌日の講評会は、A, B, Cの順番で発表を行い、講師である原田氏、長野氏から講評を受けるという形式で進めました。

女性4人のAグループは、敷地西側の山と呼応したような大きな山形の屋根を4戸の住戸に架け、プライベートとパブリックの中間領域を作るという案で、模型まで作成してプレゼンテーションを行いました。講師からは、各住戸の居住性を指摘されつつも短時間でクオリティーの高い案をまとめた事が評価されていました。



Aグループ作品とメンバー

男性4人のBグループは、住戸間の配置計画を「ハの字」で計画し、一定の距離感をとるという事と住戸の中に広い土間空間を作り緩衝空間として利用できるようにする事で個と群の関係について回答した案でした。こちらも模型まで作成してプレゼンテーションを行いました。

講師からは、土間が入る事で住戸面積が大きくなりすぎる事や、「ハの字」に開いた部分の扱いが中途半端な点が指摘されていました。



Bグループ作品とメンバー

Cグループ作品とメンバー

男性3人のCグループは、コミュニティ形成を共通認識から作るというコンセプトのもと、敷地横に学校がある事からグラウンドという共通認識を団地内に作る案を提案いたしました。夜中2時まで案を検討していた事もあり、まとめるまでの時間がなかった事から講師からは住戸内部の計画や、グラウンドの配置について指摘を受けていました。

こうして、短時間ではありましたが建築塾は無事終了し、塾生も満足して帰っていく様子が見れたのが本当良かったと思います。

全部の発表後、九州支部長の松山氏より、女性4人のAチームの案は大胆で面白くなる可能性を秘めている案ではあるものの、この敷地に大きなスケールをもつ建物を作る感性を疑うべきとの指摘を受けました。また、男性2チームの案は現実的すぎて、面白みに欠けるという指摘を受け、塾生全員に対して学生の頃考えた事が社会人になる事で、提案にブレーキがかかりすぎており、所長世代が若いスタッフに求める事は所長世代が考えられない案を提案の糸口として出してくれる事を期待してる事であるため、まとまり過ぎずに考えて欲しいとの意見を頂きました。また、時間のなかでプレゼンテーションまでまとめあげ、形にした事は評価すべきとの意見も合わせて頂きました。

塾生からは感謝の声とともに1泊2日の日程だったため役員や地域会員と十分に話す時間がなく少し残念だったとの声もあり、次回の開催はコロナが収束して通常通り2泊3日で多くの塾生に参加いただける事を願っております。

今回、運営のご協力頂きました支部役員の皆様、熊本地域会の皆様、スタッフを建築塾に参加させて頂いた事務所経営者の皆様、講師の長野様、原田様にこの場をお借りして感謝いたします。ありがとうございました。

最後に、次代の九州の建築を担う塾生に頑張って欲しいとの事と是非将来は、JIAに入会し、次の世代として活躍して欲しいとの思いもお伝えされていました。



終了後の集合写真

事務局紹介



吉瀬公恵・谷山裕子（事務局）

ずいぶん秋も深まってきて、新米の美味しい季節となりました。

JIA九州支部事務局は、繁忙期以外は吉瀬週5日、谷山週3日の勤務形態で運営しています。お休みをいただくときも、事務局の事は何も心配することなく谷山に任せてお休みすることができるから、二人体制は大変有り難い事と思っています。

さて、最近、会員様の事務所にデザインレビューの実行委員や参加をされた方が入社しておられる事を、イベントの参加者名簿や契約書を購入に事務局へ来局された折に知ることがあります。昔JIA建築塾の塾生の皆様が、現在の九州支部役員や地域会役員として、会の運営を支えておられるように、こうして次の世代へつなげていくのだなぁと感じています。事務局もいずれ交代する時に、次の事務局員にとって、働きやすい職場である事を目指して日々業務していきたいと考えております。

世の中の変化にも柔軟に対応して、JIA事務局全体で変わっていかねばいけない事もあるのではなからうかと思う事もあります。

おしまいに日頃の電話対応の事を少し書くと、日常業務に建築相談の受付業務があるのですが、電話をかけてこられるのは、家の事で不安や困り事がある市民の方ですから、話を正確に丁寧に聴くそして話す事と、JIAで受付できない相談は、委員長にも相談して他団体等の窓口を案内する事を心がけています。しかし執行部や役員の皆様への電話対応は、たまには口調が強くなったり、紋切型になったりして、受話器を置いたあとで、今の少しきつかったかなあ〜と谷山に確認したりして、心配しております。どうぞお許し下さいませ。お近くにお越しの折は、事務局にも来局ください。お待ちしております。

皆様こんにちは。パート事務員の谷山です。

吉瀬さんに「手伝って!」と頼まれて、

何を?どこで?も知らされず、ハテナだらけでこの事務局に連れてこられ、入り口で初めてJIAのロゴを眺めてから、もうすぐ丸8年になります。

現在は週3回(基本月・水・金)勤務しております。

事務局ではパソコンでの業務が多く、メールチェックは特に神経を使います。

以前からあったことですが、新型コロナが流行し始めた2020年以降、毎日たくさんの迷惑メールを受信します。ちなみに本日は水曜日、月曜日の17時から水曜日の10時の間に、47件が迷惑メールフォルダに自動で振り分けられ、手動でも10件近くの不審なメールを削除しました。セキュリティソフトによって駆除されているものも少なくありません。ウイルス感染は防がなければなりませんし、事務局からの一斉配信メールには、URLの貼り付けや添付ファイルも多いので、迷惑メールと認識されていないかという不安もあります。

会員の皆様に、しっかり安全に届いていますように。

ところで、8年の間に変わったことといえば、通勤で利用している西鉄大牟田線で、雑餉隈〜下大利間の高架化工事が進み、今年8月ようやく電車が高架の上を走り始めました。車窓からの眺めは一変し、かなり遠くまで見渡せるようになりました。駅も新しくなったので途中で降りてみたりして、通勤時間も楽しんでます。

仕事道具の老眼鏡も三本目、着実に齢を重ねているなあと感じる今日この頃。

これからも頑張ります。よろしくお願ひいたします。



左写真 事務局の室内風景

上写真 ホワイトボード



上写真 事務局内の本棚

右写真 あずまビル（事務局）のレモンの樹に住むアゲハ蝶の幼虫

まちと建築展

JIA福岡地域会では、2022年度の事業として建築展を開催しましたのでご報告させていただきます。はじめに、JIA会員の皆様をはじめ、建築関係の方々、建築を学ぶ学生を含め多数の来場を頂くことができました。改めて御礼申し上げます。

福岡地域会としましては定期的な開催を目標とし2020年以来の2回目の「まちと建築展」の開催となりました。福田哲也地域会会長を先頭に、執行部一同どのように建築展を行うか様々な意見交換を行ってまいりました。今回の建築展は、一般社団法人日本能率協会主催の「九州ホーム&ビルディングショー2022」に共催という形で参加することで、イベントに出展されているメーカーの方々や会場に訪れた建築業界に関わるの方々、今後建築を目指す学生の方々と、我々建築家が対話できるような建築展にしたいと考え、展覧会の企画や構成を考えてまいりました。マリンメッセ福岡B館1階で行われた「九州ホーム&ビルディングショー2022」は3000人を超える来場者があり九州で最大で唯一の建築専門展示会で、様々なメーカーや業者が新商品などを展示し、新しい技術や商品を知ることのできる貴重な機会になっております。このイベントに共催として建築展を開催することで、訪れた建築に関わるの方々や建築を学ぶ学生に、建築家の考える「まち」における建築とのつながりや建築家の活動や思想について改めて感じて頂き、今後の建



模型を眺める学生



新田 崇博（福岡地域会）



模型に連動した写真や図面で構成された20枚のパネル
建築界の発展を共に考え、交流を深めていきたいと思い
企画させていただきました。参画意識の高い建築関係の
の方々と、豊かな「建築」とこだわりの「ものづくり」を
掛け合わせる事によって、より一層、居心地の良い「ま
ち」をつくる「きっかけ」になればと思っています。

マリンメッセ福岡B館2階の「まちと建築展」会場には、前回の建築展と同じく約7.2メートルの大きな円卓に20名の参加者の模型を並べ、訪れた方々が円卓の周りをぐるぐるとめぐりながら展示を見る事ができる構成としました。また、それぞれの作品の前にはスツールを置くことで座ってじっくりと模型を覗き込む事ができる様にしました。建築への思いがにじみ出る様々なスケールや用途の模型作品と、中央には各事務所の過去の作品の模型が街並みの様に並べられる事で、円卓自体が「まち」を連想させる展示構成となりました。各模型前にはプレートに大きく作品のテーマを掲げ、その思いを知って頂く説明文を添えることでわかりやすい展示となる様に工夫を行いました。訪れた方々が円卓のまわりでちいさな「まち」をめぐる様に思い思いの角度から熱心に模型を覗き込む姿が、まちと建築を肌で感じて頂いている様でとても印象に残っています。また円卓の展示台の横には、各作品の模型に連動した写真や図面で構成されたパネル展示も行いました。これにより、建築家の建築への思いや考えが訪れた方々に伝わりやすい展示になったと自負しております。

今回の建築展では、会場隣の会議室を利用し期間中に様々なトークイベントを展示と合わせて開催させて頂きました。より豊かで快適な空間を目指して、様々な専門家を交え、Lab活動を通して独自の研究を行いながら設計活動をされているの福岡地域会末光弘和（SUEP.）会員には「地球環境とこれからの建築デザイン」というテーマで実作や研究データを交えながら講演をして頂きました。また「地方都市だからこそ、設計事務所×メーカーのものづくり」と題し2つのテーマを掲げて建築家とメーカーによるものづくりについてのトークセッションを行いました。「建築と素材」については建築家の立場からは福田哲也地域会会長、有吉兼次副地域会会長、メーカーの立場からは協力会員の株式会社鹿田産業様、アサヒ製鏡株式会社様に御登壇頂きました。「建築と機能」については佐々木寿久副支部長、村上副地域会長、協力会員の株式会社ニシイ様、株式会社ケーワン様に御登壇いただき、設計事務所と共に取り組んでいるものづくりや活動をめぐりトークセッションを行って頂きました。2日目には「2030年、省エネ法により、窓の大きい建物は建てられなくなるかもしれない」というテーマで、熊本で伝統工法や自然素材の建築に取り組まれている、熊本地域会古川保会員と松山将勝支部長がトークセッション



会場風景

を行い、省エネ法改正による今後の建築への影響や取り組みをめぐり熱い議論が交わされました。立ち見が出るほどたくさんの建築関係者や建築を学ぶ学生が参加し、熱心に聞き入っており、建築家やメーカーの活動や考えが少しでも広がるきっかけになったと思います。

今回のまちと建築展は2日間の開催でありましたが、平日にも関わらず600人を超える来場があり、会場には人が途切れることなく建築家と建築関係者、建築を学ぶ学生の交流の場となり、活気のある展覧会とする事ができました。終わりの見えないコロナ禍、建築コストの急騰、機器や職人の不足など、我々建築業界に身を置く立場にとっては逆風の時代の中、建築家の職能、文化を伝える事は、数字だけでは計る事ができない新たな価値生み出すきっかけとなり、今後の建築業界のためにも何よりも大事であると実感した次第です。他の建築家の思想やより良いものづくりを目指すメーカーや施工会社の取り組みや想いを知る事が出来た事も併せて大切な2日間となりました。

開催にあたりご協力いただいた皆様、お忙しい中会場に訪れて頂いた来場者の皆様には、まちと建築展執行部一同改めて心より感謝申し上げます。

今後とも建築文化の向上のため定期的な開催が出来る様に取り組んでいきたいと思っておりますので、皆様のご支援をお願い申し上げます。

<https://www.jia-9.org/archive/fukuoka/machiken/>



展示された20の模型

サウナと私

薄暗い灼熱のサウナ室で汗を流しながら我慢大会をしているおじさんたち、キンキンに冷えた水風呂に入ってなんとも言えないくらい気持ちよさそうな顔しているおじさんたちの気がしれなかった。

僕は昔、サウナが大嫌いだった。

僕の父は、大のサウナ好きで実家にはTOTOが販売しているボックス型のサウナがあり、毎晩そのサウナに入る父を横目に僕ら家族は生活していた。どうして大人はわざわざあんな熱いところには行って、汗をかいてるんだろうか。理解し難い大人の行動だったが、7年ほど前、馴染みの美容師さんから「サ道」というサウナの素晴らしさが事細かく描かれた漫画を勧められたので読んでみた。最初は乗り気でもなかったし、むしろ冷やかし的な感じで読み始めたが、読み終える頃には、ここまで気持ち良いというのであれば一度体験してみようかな。という気持ちにまでなっていた。1度くらいは騙されたと思ってやってみよう。ということで、当時弊社にいたスタッフと二人で奄美大島の街なかにある古いホテルのサウナに向かった。6人くらいが座ると窮屈な大きさの空間におじさんたちが滝汗をかきながらジッと座っている。サウナの室温は95度くらい。3分くらいであまりの熱さに耐えられなくなりそうだったが、砂時計にとらめっこしながらなんとか10分ほど我慢して入った。その後、汗を水で流してから、チラーで冷やされていない水道水かけ流しの水風呂に入る。今となってはぬるくて満足できない水温20度くらいの水風呂に、息を止めながらゆっくり肩まで水風呂につかる。そして、深く呼吸をしながらじっと動かないでいると肌の表面に羽衣とよばれる膜ができてくる。30秒くらい経つと冷たさ自体感じなくなり、なんだかほわほわした不思議な感覚になり、絶対に長いこと入れないと思っていた水風呂に3分ほど浸かることができた。その後、浴槽の脇にじっと座り、身体を平温に戻す。この外気浴をすることで、水風呂で冷えた身体を元の体温に戻そうと血流が良くなり、なんとも言えない気持ち良い感覚になる。これを3セット程度繰り返すと俗にいう「ととのう」という状態になる。

帰り道、夜風に当たりながら今まで感じたことない快感に襲われ、自然と笑顔になったのを鮮明に覚えている。その晩はぐっすり深い眠りができて翌朝疲れが残っていない清々しい朝を迎えることができたのだ。

その日以来、北は北海道、南は沖縄まで良いサウナが

酒井 一徳（鹿児島地域会）

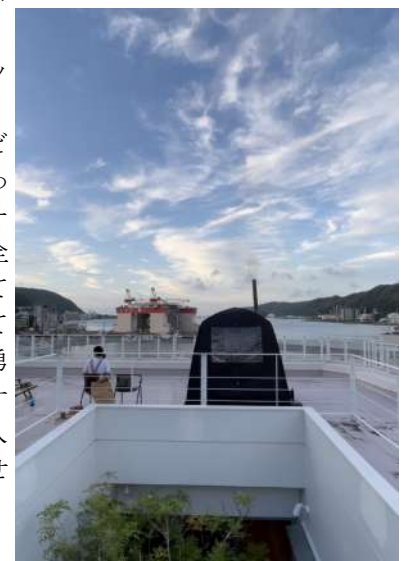


あると聞けば足を運んで、自分に最適なサウナを探る日々がはじまった。行く先々でサウナの室温・湿度、水風呂の水温も測り、どういう組み合わせが最適なのかを試し、テントサウナも購入し、週5でサウナに入らないと禁断症状が出るまでのおっさんになっていた（笑）



特注サウナストーブ

これから建て始める奄美大島の自邸には、家族の水回りスペースより大きなサウナ空間があるくらいサウナにドハマりした自分がある。あんなに大嫌いだったサウナが、今ではサウナ付きホテル、サウナ専用温泉施設やサウナ付き別荘・住宅などサウナ絡みのプロジェクトも増えてきた。自宅のサウナは、自分に適した温度と湿度を実現する為に、金沢にあるストーブ工場の特注サウナストーブを作ってもらっている。また、サウナに入ることで働き方も変わってきた。以前は朝方まで仕事する完全夜型生活から、サウナ後夜10時くらいには就寝して、朝3時起きという朝方生活に変わり、仕事効率、体調も良くなり、ここ数年風邪を引くこともなくなり、仕事の効率が上がった。サウナには、肉体疲労の回復、ストレス解消、安眠効果、コリの解消、ダイエット、自律神経の調節、冷え性などの改善など素敵な効果がある。最近、サウナブームで素敵なサウナが全国各地で生まれてきている。サウナに対して苦手意識のある方も勇気を出して一度サウナを体験してみても？人生変わるかもしれないよ。



サウナテントで家族とサウナを楽しむ

「あの頃の思い出」2015年支部長会議

この年 大分でJIA支部長会議が大分で開かれる事となった。なんでも 衛藤元弘会員が本部理事で東京での会議の際、支部長会議を“大分で”の声が上がり自分が地域会長の時に開催されることとなったのです。大分に全国の支部長が集まるといふ大変な事が決まったのです。そのころの大分は駅の高架化にともない駅周辺の再開発が進み 坂さん設計の大分県立美術館が完成したばかりで、大分が大きく変化している時でした。

2015年5月31日（日）の昼までに大分駅ビルJR九州ホテルブラッサム大分に参加者が集まりました。チェックインのあと“JIA支部長会議in大分”の開催です。まずは 磯崎新氏設計の「アートプラザ」の見学、そこからタクシーで移動し完成したばかりの坂茂氏設計の「大分県立美術館」を見学しました。新旧の大分での代表的な建築を見ていただいた後 大分県立文化センター 小会議室 3 にて会議の開催です。

その当時の議題としては“社会への対応”建築家資格制度、建築生産システムの多様化と建築家、設計者選定のあり方、まちづくりにおける建築家の役割、建築家の仕事の評価システム、建築教育・生涯教育JIA内部の委員会・部会の役割 等々 私はオブザーバーとして会議を聞かせていただきました。内容は書きませんが 真剣にそして容赦ない言葉が飛び交いその迫力にたじたじとなった記憶があります。こうしてJIAが動いているのだと実感しました。

3時間の会議があっという間に過ぎていきました。しかし 議題は現在でも議題となりうる問



支部長会議の様子



後藤 靖二（大分地域会）

題ばかりで 時間をかけて解決すべき事柄ばかりのようです。次世代の課題でもあると思います。喧々諤々とやりあった後に大分の味で喜んでいただきました。

先ほどまでの迫力はどこへやらで和気藹々と食べて飲んで話して。皆さん殆ど欠けることなく二次会 三次会と日曜日で開いている店も少なかったのですがよく飲みました。話の内容といえば 建築の事、JIAの事等で熱く語る様子には感心させられました。夜遅くまでご苦労様でした。

最終日は貸し切りバスにて中津へ向かいます。横文彦氏設計の「風の丘葬祭場」続いて「中津市立小幡記念図書館」の見学です。「風の丘葬祭場」の抽象的な形態は現代建築そのものですが、周囲の公園と一体となった空間は歴史的建築物のような風格が漂います。「中津市立小幡記念図書館」は1993年竣工し、公共建築百選に選定されています。これらの建築を見られていない方は是非一度見学されることをお勧めします。



風の丘葬祭場にて記念撮影

最後に明治34年創業の中津の料亭「日本料理 筑紫亭」にて鰻料理をいただきました。名物女将と登録有形文化財の建物も同時に楽しめます。すべての予定の最後だということもあるのでしょうか。次第にほぐれてきま

すと昼食にもかかわらず皆さん飲むわ飲むわで幹事として心配になってきたことを覚えております。

皆様の笑顔の中で無事“JIA支部長会議in大分”が終了しました。考えてもいなかったJIAの支部長会議を大分の地で開催されたことに感謝します。JIAでの物事の進め方を垣間見ることが出来た事はJIAの活動へ何らかの形で出てくるかと思えます。この頃の集まることさえ難しくなったコロナ禍の時代にこういった事は望めないかもしれませんが、また機会があればよろしくお願ひします。



わさもん new JIAkyusyu members

新入会員の紹介



井口 忠（福岡地域会）

この度JIAに入会させて頂きました井口と申します。石本建築事務所の九州オフィスに在籍しており、構造設計業務を担当しています。九州エリアを中心に、全国の案件に携わっており、オフィスや工場、商業施設などの設計、監理業務を行っています。

大学卒業が平成の始まりの頃で、世に言うバブル期になります。その頃は新しい建物が次々に計画されていたのですが、当時は設計よりも超高層建物などの解析の方に興味がありました。そこで解析プログラムの開発や受託解析業務を得意としている会社に入社、プログラムコードや解析結果のグラフを見比べる生活をしていたのですが、徐々に設計の方に興味に移り、実際に設計を行うようになっていつの間にか30年近いキャリアとなっています。

集合住宅や個人住宅、教育施設、商業施設、宿泊施設などの様々な建物に関わってきましたが一番印象に残っているのは、やはり設計から常駐での現場監理までを行った超高層建物でした。建物の規模もさることながら、とにかく関係者が多く、そのプレッシャーに負けない様に日々の業務を行っていたことが思い出されます。

その時の経験から、建築物には必ず関係者が多く存在しており、それぞれが建物に対して色々な思いを持っている、と感じる様になりました。今回JIAの活動に参加することでも様々な人々と関わりを持ち、発注者や利用者、各関係者のニーズに近づける建物が実現できるよう努めていきたいと考えております。どうぞよろしくお願ひいたします。



障害者支援施設 北九州あゆみの里

JIA北福岡地域会 建築セミナー開催のお知らせ

□11月12日（土）

場所：九州工業大学内 製図講義棟

住所：〒804-8550 北九州市戸畑区仙水町1番1号

開会：15:00～

1部：前田圭介セミナー 15:10～

2部：「2100年に建つ建築」のその後 16:30～

※閉会は17:40を予定しています。※CPD対象セミナー

○1部 前田圭介建築セミナー

「おおらかな場を生み出す建築的強度とは」

2012年度JIA新人賞受賞者である前田圭介氏を招き、受賞から約10年間の建築活動及び建築思想についてお話をいただきます。

○2部「2100年に建つ建築」のその後

本年度日韓合同学生ワークショップ事業のテーマは

「2100年に建つ建築」と題して小倉の紫川エリアを対象として日韓の学生9チームに提案を行って頂きました。

約10年前、本事業の講師をして頂いた前田圭介氏のテーマが「100年後の黒崎商店街を、建築家と考えてみませんか？」をキャッチコピーとした「22世紀の環境から創造する新たな未来」と、奇しくも100年という時間をテーマとした課題が、100年の1/10を経て重なるという偶然に着目させて頂き“「2100年に建つ建築」のその後”と題して、本年度日韓合同学生ワークショップ事業の日本の受賞3チームに、最終講評会を経てのその後の提案を、前田圭介氏に改めて講評して頂きます。



報告事項	
③ <常設委員会> 活動報告	
1 総務委員会	下山道男 苦情対応WG:川津悠嗣 知財WG:佐々木 信明
8/8第2回・入退会審査 ・委員会構成について ・委員会規程に関する運用基準の修正について ・「定年後嘱託者再雇用規程」改定案について ・JIA個人情報保護規程の見直し案について	
苦情対応WG 報告事項なし	
知財WG 報告事項なし	
2 財務委員会	作田耕一郎
8/16ZOOM会議 公益目的事業助成継続	
3 職能・資格制度委員会	佐々木 信明
・8/8 職能・資格制度/建築家資格制度実務委員会 第2回合同委員会の開催 JIA沖縄大会プレイベント (8月4日18時～19時30分)、規則類改定・登録建築家評議会審議結果他の件 ・8月25日第2回委員会開催 沖縄大会プレイベントの件、規則類改定/理事会承認の件、登録建築家再登録誓約書提出の件	
4 業務委員会	前田哲 建賠WG:田中康裕
報告事項なし	
5 広報委員会	川津悠嗣
9/8 9月度本部広報委員会	
6 教育委員会	田中康裕
9/1 委員会開催 JIAスクール、リフレッシュセミナーについて協議	
7 国際委員会	水本浩二
8/26 国際委員会 (JIA沖縄大会、ARCASIA、ゴールデンキューブ賞、EAST-EAST (リニア交流) ほかに 8/26 JIA沖縄大会IPF準備会議	
8 CPD評議会	田中康裕
8/26 評議会開催	
9 建築家資格制度実務委員会	佐々木寿久
8/8 建築家資格制度実務委員会 合同委員会 ※10/4 全国大会ウェブセミナー 18:00～	

報告事項	
④ <全国会議> 活動報告	
1 JIA環境会議	古森弘一 伝統的工法のすまいWG:古川保 気候変動対応WG:福田展淳
報告事項なし	
2 JIA保存再生会議	柴田真秀
9/719時より第2回WEB会議、沖縄大会での委員会開催の件、各支部報告あり、九州支部は、鹿児島県の県民文化研究所の嘆願書の件、熊本城の件報告。また九州支部の第1階保存再生会議も近々開催予定	
2-2 JIA保存再生会議 文化財修復塾	鯨坂徹・下山 道男
8/10 ・各支部の活動報告 ・福島県沖地震文化財ドクター報告 ・HAサロン8/27開催（支部より田島、古川、藤崎他2名参加） ・2022年度講座開始（各地域会からの参加要請） ・座学講座ビデオ公開とテキスト作成について ・R4文化庁助成（奈良市内域）について	
2-3 JIA保存再生会議	松島逸人
近現代建築物緊急 調査ユニットWG ・報告事項なし	
3 JIAまちづくり会議	松島逸人
9/20～9/30で開催予定→調整中	
4 JIA災害対策会議	林田直樹
8/18 第2回災害対策会議 ・10/12全国大会プレイベントでシンポジウム開催 18時より ・災害ネットワーク作りのため全国の名簿の作成依頼 ・豪雨災害対策資料の全国への送付	
5 JIA建築相談連携会議	有吉兼次
報告事項なし	
5-2 JIA九州支部建築相談委員会：	有吉兼次
8月1日から9月11日は下記の相談対応を行いました。 ○8月26日 鹿児島 一般 基礎が埋まっている住宅の補修をどのようにするか相談	
6 住宅等連携会議	佐々木寿久
・8/10 住宅連携会議 ※10/6 全国大会 ウェブセミナー 18:00～	
報告事項	
⑤ <その他>	
1 全国学生設計コンクール実行委員会	田中康弘
報告事項なし	
2 職責委員会	佐々木 信明
報告事項なし	
3 懲罰審査委員会	川津悠嗣
報告事項なし	
報告事項	
⑥ <特別委員会> 活動報告	
1 オンライン_リモート対応や環境整備	村上明生
に特化した特別委員会 7/9 委員会開催	
2 カーボンニュートラル特別委員会	古川保
CN特別委員会には3本柱がある。①LCA推進②バイオマス（熱・給湯）の認知③気候風土適応住宅の普及である。①と②は「政策提言」で具体的な行動が起こせる。 CNに向けて建築家がいまやるべきことは何かを「建築家マニフェスト集第2弾」を試みる。試運転として、CN委員は「行動表明レポート」を次回までA4判2枚を提出。（完成度は問わない）	
3 UIA国際マニフェスト・リレー	下山 道男
特別委員会 報告事項なし	

支部事業委員会報告

教育支援委員会

1	建築塾WG	佐々木寿久	開催地熊本担当：林田直樹
	9/16-17 熊本 ホテルグリーンピア南阿蘇にて開催		
2	デザインレビューWG	池浦順一郎	
	報告事項なし		
3	DR高校生レポーターWG	重田 信爾	
	報告事項なし		
4	建築家派遣（エコルサポート）	福田 哲也	
	報告事項なし		

活動支援委員会

1	収益事業WG	川津 悠嗣	
	報告なし		
2	JIAサポートWG	川津 悠嗣	
	報告なし		
3	木活（モクカツ）WG	松島 逸人	
	9/2 スタートアップ会議 開催協議		
4	25年賞WG	下山 道男	
	九州支部内3件応募、地域会へ審査依頼 10月本部へ返信予定		
5	九州建築新人賞WG	松山 将勝	
6	ケンパイWG	田中康裕	
	報告事項なし		

報告事項	
③ <常設委員会> 活動報告	
1 総務委員会	下山道男 苦情対応WG:川津悠嗣 知財WG:佐々木 信明
9/12 第3回委員会 ・入退会審査 ・JIA個人情報保護規程の見直しについて ・東海支部学生会員入会申込書修正案について ・登録建築家マニフェスト、新リーフレットについて 10/24 第4回委員会 ・入退会審査 ・委員会構成について ・JIA個人情報保護規程の見直しについて	
苦情対応WG : 報告事項なし	
知財WG : 報告事項なし	
2 財務委員会	作田耕一郎
理事会資料による	
3 職能・資格制度委員会	佐々木 信 別添資料 1
9/22 第3回委員会開催 ・沖縄大会プレイベントについて ・作業班方針発表(あ.資格・認証コンセプトの強化...南+野々川 い.沖縄大会...藤沼+本庄 え.J5+各支部プロモート...佐々木+大田 う.民間ライセンス研究...松尾+吉田 え.UIAアコード・ガイドラインの日本における適用...清水+藤沼 お.HPの整理...谷+鳥羽) 10/4 沖縄大会プレイベント開催 「沖縄で建築家を考える」 45人参加(オンライン)	
4 業務委員会	前田哲 建賠WG:田中康裕
業務報酬基準検討委員会が再開した。(中間報告/以下サマリー) ●「9/29」第7回検討委員会 ・分析方針・スケジュールが報告された。 ・告示は年度明けを目指している。 ・やはり心配通りサンプル数が少なく、その影響が出ている。 ・住宅の面積相関関係はやはり低く、他の視点が必要になりそう。 ●「10/6」国土交通省より意見照会資料配布 ・集計資料に基づく、主な課題に関する意見照会である。 ・日数が大変限られることから、コアメンバーで意見書は作成した。 ・多くの課題がサンプル数の少なさが原因となっていますので、増やす方を提案している。 ●次回の検討委員会は11月7日。 議論の焦点が定まってきたタイミングで、改めてJIA業務委員会を開催し報告する予定。	
5 広報委員会	川津悠嗣 支部は川津悠嗣、有吉兼次 別添資料 2
本部会議は欠席。ブルテン発行準備中。近日中に発行予定。	
6 教育委員会	田中康裕
報告事項なし	
7 国際委員会	水本浩二
・9/30 第6回国際委員会(JIA沖縄大会、ARCASIA、ゴールドンキューブ賞、EAST-EAST(リトアニア交流)ほか) ・9/20、9/26、10/3、10/11、10/17 JIA沖縄大会IPF準備会議 ・10/28 第7回国際委員会(IAB大会、ASA~UDWS、UIAコペンハーゲン大会展示、ゴールドンキューブ賞ほか)	
8 CPD評議会	田中康裕
9月30日、10月28日 評議会開催	
9 建築家資格制度実務委員会	佐々木寿久
・9/12 建築家資格制度実務委員会 合同委員会 ・10/27 建築家資格制度実務委員会 合同委員会	

報告事項			
④ <全国会議> 活動報告			
1	JIA環境会議	古森弘一	伝統的工法のすまいWG:古川保 気候変動対応WG:福田展淳
	8月1日18:00～ 第一回JIA環境会議 9月26日18:00～ 第二回JIA環境会議 10月20日13:30～ JIA大会2022沖縄にて環境会議:全体会議参加		
2	JIA保存再生会議	柴田真秀	別添資料 3
	10/21 10月拡大定例会議開催		
2-2	JIA保存再生会議 文化財修復塾	鯨坂徹・下山 道男	
	9/14第3回WEB会議 ・各支部の活動と予定 ・JIA-HAサロンの開催 ・2022年度履修状況報告 ・鹿児島HMとの協定について ・R4文化庁助成(奈良市内域)について 10/12第4回WEB会議 ・各支部の活動と予定 ・HAサロン10/29に開催 ・座学講座ビデオ公開とテキスト作成について		
2-3	JIA保存再生会議 近現代建築物緊急 調査ユニットWG	松島逸人	
	報告事項なし		
3	JIAまちづくり会議	松島逸人	
	9/27 ZOOM開催。 全国の活動実績の報告等。 今後の活動概要の確認、意見交換。		
4	JIA災害対策会議	林田直樹	
	10/12に沖縄大会のイベントで「何海トラフ地震に際して必要な全国ネットワークを考える」という題目でプレイベントが開催されました。		
5	JIA建築相談連携会議	有吉兼次	
	建築家大会前にメールにて各支部の建築相談実施状況の情報交換をメールにて行った。北海道支部は相談は1件もない状態。東海支部今年度(4月以降)は今日現在で4件(愛知4、岐阜0三重0静岡0)と、例年の半分以下となりそうなペースです。四国支部3年で2件。近畿支部2019年度:11件2020年度:2件2021年度:5件2022年度(現在):8件、九州支部は別紙のように報告を行った。		
5-2	JIA九州支部建築相談委員会:	有吉兼次	
	9月12日から10月31日は相談業務はありません		
6	住宅等連携会議	佐々木寿久	
	・9/14 住宅連携会議 ・9/15 住宅連携会議 ・9/29 住宅連携会議 ・10/6 住宅連携会議ウェビナー「建築家、コストをデザインする」 ・10/13 住宅連携会議		
報告事項			
⑤ <その他>			
1	全国学生設計コンクール実行委員会	田中康弘	
	報告事項なし		
2	職責委員会	佐々木 信明	
	報告事項なし		
3	懲罰審査委員会	川津悠嗣	
	報告事項なし		
報告事項			
⑥ <特別委員会> 活動報告			
1	オンライン_リモート対応や環境整備 に特化した特別委員会	村上明生	
	報告事項なし		
2	カーボンニュートラル特別委員会	古川保	
	カーボンニュートラルのマニフェスト集をつくる。会員から募集するが、締め切りは来年の1月31日。主旨文は、沖縄大会において袴田会長が発表する。今回、特別委員会の委員10名が試みにマニフェストを試験的作成して発表した。		
3	UIA国際マニフェスト・リレー 特別委員会	下山 道男	
	報告事項なし		

支部事業委員会報告

教育支援委員会

1	建築塾WG	佐々木寿久	開催地熊本担当：林田直樹
	報告事項なし		
2	デザインレビューWG	池浦順一郎	
	10月26日に会議を行い、学生実行委員の発足、今後のスケジュールについて協議を行った。		
3	DR高校生レポーターWG	重田 信爾	
	報告事項なし		
4	建築家派遣（エコルサポート）	福田 哲也	
	6月から続いている東住吉小学校のエコルサポートの最終模型製作を、10月4日と14日の2日間にわたって行った。		

活動支援委員会

1	収益事業WG	川津 悠嗣	
	報告事項なし		
2	JIAサポートWG	川津 悠嗣	
	報告事項なし		
3	木活（モクカツ）WG	松島 逸人	
	9/23 スタートアップ会議を開催。 来年度の事業へ、活動の概要について意見交換。 今後準備を進めて行く。		
4	25年賞WG	下山 道男	
	熊本「熊本県立美術館」、鹿児島「霧島音楽ホール」現地審査日程調整中		
5	九州建築新人賞WG	松山 将勝	
	11月7日にコアメンバーによる会議開催予定		
6	ケンバイWG	田中康裕	
	9月26日、10月31日 ワーキング開催		

協力会「JIA協力会オンラインセミナー」

毎週金曜日のお昼12：30から20分間、ZOOM配信でお送りする、多ジャンルの建築系セミナーです。正会員はもとより、スタッフの皆さんの知識向上に大いに役立つ企画です。何より毎週同じ時間に、同じチャンネルで行われるセミナーですので、自分に癖付けして視聴するだけで、1年で50ものジャンルの知識が勝手に手に入る都合のいい企画です。

8月は大光電機(20名参加)の配信を行いました。引き続きご登壇協力会様を募集しています。詳しくは福岡地域会事務局までご連絡ください。

ZOOMミーティングID: 777 702 7081 パスコード: jia
<https://zoom.us/j/7777027081?pwd=Mnh3THV3RkFlbjkydTdVRWlBenBCUT09>



福岡地域会役員会（第3回）

- 日時：2022年8月20日土曜日18：00-19：30
- 場所：天神ビル11階
- 参加人数：12名
- 確認事項
第2回役員会議事録確認
- 審議事項 入退会について
- 協議事項
1. 建築展について
- 報告事項 1. 会長報告 2. 九州支部長報告 3. 事業室報告4. 企画運営室報告 5. その他



「まちと建築」展ご案内

- 建築展概要 ■
- 表題 : 「まちと建築」展
- 目的 : 建築家協会が掲げる、建築家の職能について、建築関係者の方々に周知する。
- 建築展場所 : マリンメッセB館 2階会議室 B 福岡市博多区沖浜町2-1
- 開催期間 : 2022年9月28日（水）・29日（木）の2日間 10時～16時



協力会主催「納涼懇親ボーリング大会」

- 日時：2022年8月22日 月曜日 18：15～
 - 場所：ラウンドワン福岡天神店
 - 参加人数：65名
- 今回、3年振りに納涼懇親ボーリング大会が開催されました。久々に会員・会員事務所スタッフそして協力会の方々と交流する機会を設ける事ができ、大変盛り上がりしました。大会終了後には、福新楼 2階大宴会場にて表彰式と懇親会が行われました。



■ JIA長崎地域会2022 第1回 3役会

- 日時 2022年8月17日(水) 17:00～
- 出席 松本副地域会長、一丸副地域会長、平松会計担当、鼻崎

□支部役員会について一丸さんより報告

1, LCA特別委員会の長崎地域会担当について

久家さんか、松本さんで調整

2, 北九州支部大会、熊本建築塾、沖縄全国大会について

- ・現在長崎地域会からは、参加が少ないとの報告
- ・一丸さんの事務所所員が建築塾へ参加したかったが
コロナ禍の中会社として派遣は難しかった
- ・業務多忙とコロナ禍の中での参加は難しいとの意見

(3役同意見)

- ・最終の案内を鼻崎の方で行う事となった

9/6正会員向けメールにて一斉送信

■ 2022年8月役員会

- 日時 2022年8月23日（火） 18：00～
- 場所 オンライン会議
- 出席 8名(途中退室1名)

□オンライン会議で役員会を開催。

1. JIA支部活動報告
2. 今後のスケジュール
3. 合同例会延期の件 日時、内容協議
4. 設計4団体内協議（幹事：JIA）
5. JIA 25年建築選・建築賞
6. 講演会・鹿大合同講評会
7. JIA 建築展・シネマ祭
8. KIRA全北との国際交流
9. 入会、建築相談の件
10. その他



役員会開催状況



役員会開催状況

活動スケジュール

○7月

- 1~2日：京都ツアー
- 3日：小倉街歩き
- 9日：九州支部役員会
- 15日：北福岡地域会第4回役員会
- 16日：日韓合同学生WS課題発表会
- 23日：支部長漫遊記in北福岡
- 25日：北福岡地域会第3回特別委員会
- 30日：日韓合同学生WSコンセプト発表会・講習会

※特別委員会は日韓学生WS準備委員会です

京都ツアー

- 日時：令和4年7月1日金曜日~2日土曜日
- 場所：京都
- 参加：10名（宮崎地域会：越山様、小嶋様、遠藤様参加）
- 報告事項
 - ・日韓合同学生WS講師の木村松本建築設計事務所 木村吉成氏との打ち合わせと作品視察、昨年度の講師 魚谷繁礼氏への御礼建築視察の目的で開催した。
 - ・現在木村松本事務所として借り受けている本野精吾邸、2021年新人賞受賞作品「houseS/shopB」を見学。骨組みから設計する独自の手法。事務所に無数の骨組み模型に驚く。
 - ・魚谷建築 SOWAKA宿泊、祇園、コンテナ町屋、ガムハウスを見学。古民家再生、大胆な増築手法などを卓越したデザイン力で昇華。 ・南禅寺、ブルーボトルコーヒー、京セラ美術館、ロームシアター京都、鳩居堂見学。

小倉街歩き

- 日時：令和4年7月3日日曜日 10:00-17:00
- 場所：小倉
- 参加：木村先生、三迫、杉野、金子、後藤、中條、塩釜
- 報告事項
 - ・日韓合同学生WS講師の木村先生とワークショップ課題エリアの小倉市街地の街歩きを行った。

- ・韓国学生に伝わるよう動画撮影を行いながら現地を歩いた。
- ・小倉の歴史、文化や近代化の歩みを体感しながら説明した。



北福岡地域会第4回役員会

- 日時：令和4年7月15日金曜日 18:00-19:00
- 場所：アートホテル小倉ニュータガワ
- 参加：服巻、三迫、松島、高濱、杉野、戸村、金子、塩釜
- 報告事項
- 支部長漫遊記会場費、登壇者懇親会費を例会費、委員会費から審議承認。○LCA特別委員会、25年賞候補、九州支部組織票について確認 ○九州支部大会2022in北福岡の開催について詳細検討

日韓合同学生WS課題発表会

- 日時：令和4年7月16日土曜日 10:00~11:30
- 場所：ZOOM
- 参加：40名（木村先生、日韓学生、教授、通訳、JIA会員）
- 報告事項
- ・日韓学生WS課題発表会を開催した。
- ・課題「2100年に立つ建築」
- ・街歩き映像説明
- ・北九州市「2050まちづくりビジョン」



支部長漫遊記in北福岡

- 日時：令和4年7月23日土曜日 16:00-21:30
- 場所：秘密基地+居酒屋 八州
- 参加：14名（登壇者：橋迫氏（古森弘一建築事務所）、中條氏（中條雅文建築事務所）、西園氏（東畑建築事務所）、首藤氏（スズキ設計）
- 報告事項
- ・成熟度の高い作品から個性的な作品まで幅広いプレゼンが行われた。
- ・設計人生論にまで及ぶ支部長のサロントークが繰り広げられた。
- ・懇親会まで含め各登壇者から充実した喜びの声が上がった。



北福岡地域会第3回特別委員会

- 日時：令和4年7月25日月曜日 17:30~18:30
- 場所：ZOOM
- 参加：三迫、高濱、杉野、金子、中條、塩釜
- 報告事項
- ・7/16課題発表会検証
- ・7/30コンセプト発表会・講評会について、ZOOM+FBライブで行う。役割分担確認。

日韓合同学生WSコンセプト発表会・講評会

- 日時：令和4年7月30日土曜日 10:00~15:30
- 場所：ZOOM
- 参加：
- 報告事項

活動スケジュール

○8月

- 6日：九州支部役員会
- 13日：北福岡臨時役員会
- 24日：福岡県建築確認円滑化対策連絡会議
- 29日：北福岡地域会第5回役員会

○9月

- 3日：日韓合同学生WS中間講評会
- 7日：25年賞現地審査
- 12日：九州支部大会リハ+北福岡地域会第6回役員会
- 16・17日建築塾in熊本、支部役員会
- 20日：北福岡地域会第7回役員会
- 23・24日：九州支部大会

北福岡地域会臨時役員会

- 日時：令和4年8月13日土曜日 10:00~11:00
- 場所：ZOOM
- 参加：三迫、金子、松島、塩釜
- 報告事項
 - ・8/26開催予定の紫陽花の会開催の是非を協議
 - ・会の主旨を鑑み、また一人でも多くの方に参加を期待することから11月に延期することで満場一致決定

北福岡地域会第5回役員会

- 日時：令和4年8月29日月曜日 18:00~20:00
- 場所：ハコガシ21号室
- 参加：服巻、熊谷、三迫、松島、高濱、杉野、戸村、金子、塩釜
- 報告事項
 - 九州支部大会2022in北福岡のリアル開催について協議
 - ・感染対策を講じて、リアル開催とする
 - ・二次会は中止・エクスカーション中止
 - 釜山学生建築フェスタへ参加（大韓建築学会 釜山支部協定より）
 - 25年賞現地審査について 確井町立確井琴平文化館現地審査を行う

日韓合同学生WS中間講評会

- 日時：令和4年9月3日土曜日 10:00~16:30
- 場所：ZOOM
- 参加：日本40人 韓国30人
- 報告事項
 - ・日本4大学5チーム、韓国3大学4チームが、プレゼンを行った
 - ・木村先生の指導により、最終講評会に向けた方向性が示された



25年賞現地審査

- 日時：令和4年9月7日水曜日 10:30~12:30
- 場所：確井町立確井琴平文化館
- 参加：三迫、塩釜
- 報告事項
 - 現地にて、嘉麻市教育委員会（旧確井町）美術館係有江氏と徳岡設計九州事務所長 谷本氏の案内で現地を視察し、当時の松岡町長、徳岡先生の思い描いた世界が27年を経た今でも、脈々と受け継がれ美しく古びながら愛され大事に使われていることを実感した。特に担当の有江氏は、建築当時より徳岡建築を深く理解され、何かあれば徳岡設計に相談され、それに真摯に対応されている事務所の姿勢に感銘を受けた。



建築塾in熊本

- 日時：令和4年9月16～17日
- 場所：南阿蘇村
- 参加：松島、塩釜
- 報告事項
 - ・11名が塾生として参加 ・1泊2日の工程で、災害公営住宅や震災ミュージアム現場見学、座学と充実した建築塾であった。塾生の徹夜明けの充実した顔は、建築が与える魅力を物語っていた。



九州支部大会

- 日時：令和4年9月23～24日
- 場所：北九州国際会議場
- 参加：支部会員他54名 日本学生34名 韓国30名(リモート)
- 報告事項
 - ・4年ぶりの支部大会を北九州で開催した。・1日目は、北九州市建築都市局から2名の来賓を迎え、木村松本建築設計事務所 木村吉成氏によるセミナーを開催、2日目は、日韓合同学生WSを開催した。・ウエルカムパーティや懇親会も行い、支部会員間の交流も行った。



8月例会 「荒々しさ」と「緻密さ」の振れ幅
の中に存在する「豊かな空間」を目指して

講師：建築家 西口賢（一級建築士事務所 西口賢 建築設計事務所）

■日時：8月31日水曜日18時30分～20時30分

■場所：FAIRBANKS（Zoom同時配信）

登壇者は建築家の西口賢氏で愛知県岡崎市からお越し頂いた。九州では初のレクチャーで、「大地の家」で第1回日本建築士会連合会建築作品賞大賞や第52回JIA中部建築賞大賞など輝かしい実績のある現在注目の建築家である。冒頭から建築に対する自身の姿勢を図や写真を用いながら丁寧に語り、建築家の内にある作風の変遷を隠すことなく話された。下積み時代は師の長瀬信博氏の作風であるモダニズム「軽さ」「薄さ」に傾倒しながらも独立後は緑や森への興味がこれまでの建築に対する考えに徐々に変化し始めている。「意匠」と「構造」を「骨格」と「化粧」というワードをに置換し、独立して間もない頃の作品から近年までの作品をそのワードに則しながら語ってもらった。「骨格」に比率が高くなり始め、民家やバナキュラーな建築に思考がシフトし、千利休の考えにある「守・破・離」を目指すようになった。そこから建築の思想は一気に開け、「自然」と「建築」の関係性をより深め、造園（庭）と一体となった建築を模索し始める。それは身体的・感覚的で自然の一部となるようなプリコラージュ的な建築である。（プリコラージュは、理論や設計図に基づいて物を作る「設計」とは対照的なもので、その場で手に入るものを寄せ集め、それらを部品として何が作れるか試行錯誤しながら、最終的に新しい物を作ることである。）「大地の家」はこの思想のもとにつくられている。タイトルにもあるように、不均一さを求め、建築的なおさまりではなく、造園的なおさまりを現場で造園家と共に試行錯誤し、造園と建築の接点をデザインしていく。造園と建築を等価に捉えながら、これまでに見たこともないような空間をつくっている。「大地の家」以前の作品はWebサイトには載せておらず、建築家として過去の作風と決別し、これから建築家として進むべき方向を「大地の家」で宣言した。次の作品に多くの期待を背負い、今後更なる注目を浴びる建築家と言えるだろう。（担当 智原聖治）

福岡建築倶楽部

- ・9月のゴルフ会で井上福男さんが1位になりました。
- ・来年1月の新年会について開催可否のアンケートが来ました。
- ・JIAは福田会長が条件付き開催を回答しました。（担当 田島正陽）

福岡地域会役員会（第4回）

■日時：2022年9月22日木曜日18：00-19：30

■場所：天神ビル11階

■参加人数：12名

■確認事項

第3回役員会議事録確認

■審議事項 特になし

■協議事項

1. 建築展について
2. 全国大会について
3. 福岡建築倶楽部新年の集いについて

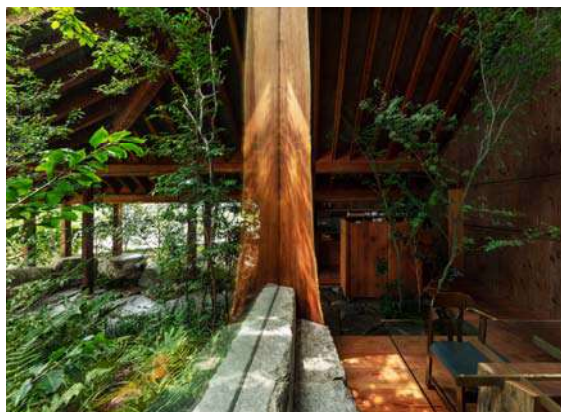
■報告事項 1. 会長報告 2. 九州支部長報告 3. 事業室報告 4. 企画運営室報告 5. その他



役員会風景



例会風景



大地の家

「まちと建築」展

■ 建築展概要 ■

表題： 「まちと建築」展

目的： 建築家協会が掲げる、建築家の職能について、建築関係者の方々に周知する。

建築展場所： マリンメッセB館 2階会議室 B 福岡市博多区沖浜町2-1

開催期間： 2022年9月28日（水）・29日（木）の2日間
10時～16時

来場者数 2日間で約500名（九州ホーム&ビルディングショーの来場者数は2日で約3000名）

同時開催セミナー ○地球環境とこれからの建築デザイン SUEP. 末光 弘和 ○～地方都市だからこそ、設計事務所×メーカーのものづくり(1)～「建築と素材」福田 哲也 有吉 兼次 ○2030年、省エネ法により、窓の大きい建物は建てられなくなるかもしれない 古川 保 松山 将勝 ○～地方都市だからこそ、設計事務所×メーカーのものづくり(2)～「建築と機能」佐々木 寿久 村上 明生



まちと建築展開催の様子



パネル展示



末光氏セミナー風景

第22回 JIA九州建築塾inくまもと

- 日時：令和4(2022)年9月16・17日金曜日・土曜日
- 参加人数：35名（塾生11名、支部役員・地域会他14名）
- 開催概要
 - ・課題：災害公営住宅（1LDK×2、3LDK×6）
 - ・テーマ：災害公営住宅から考える個と群の関係
 - ・敷地：南阿蘇村長陽西部団地隣地
 - ・講師：長野聖二建築設計處 長野氏
（株）ライフジャム一級建築士事務所 原田氏

- 現地見学
 - ・計画地及び長陽西部団地見学（原田氏より概要説明）
 - ・震災ミュージアム工事現場見学
（設計監理者o+h 坂野氏より概要説明）
 - ・旧東海大学阿蘇キャンパス（断層、1号館）見学

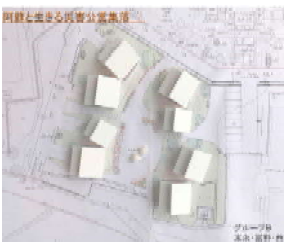


- レクチャー

長野氏、原田氏により熊本地震後の災害公営住宅について実例及びプロポーザル案を用いてレクチャー
- 懇親会 塾生、支部役員、地域会にて懇親会
- 計画 A～C 3チームに分かれて作業
- プレゼン（9/17AM）



・Aチーム
阿蘇の山々と呼応する大屋根によって4戸1組ののクラスターを形成する大胆な案。
住戸間、大屋根と住戸の隙間をプライベートとパブリックの中間領域として計画しコミュニティ形成を図っている。

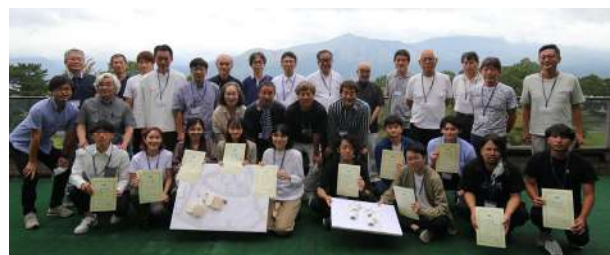


・Bチーム
住戸をハの字に配置し、住戸間の適度な距離感と視線のズレを生み出している。
内土間による外部との連続感、通風を意識した平面・断面計画、阿蘇の素材を用いた外構計画など地域の風土を活かす工夫が随所に散りばめられている。

・Cチーム
計画地は元々小学校であった。「グラウンド」という共通認識からコミュニティ形成を試みた案。学校の風景が住宅+グラウンドの風景として更新され、どこか懐かしい感覚を与えるよう意図。



- 講評 講師及び参加者からの講評
- 終了証の交付 松山支部長から建築塾終了証の交付



熊本地域会月例会（第6回）

- 日時：令和4(2022)年10月27日木曜日18：30-20：15
- 参加人数：10名
- 1.審議事項、協議事項
 - 1-1：ライティングパーティーについて
 - ・実施、延期について意見聴取、次回企画書を提出予定
 - 1-2：建築家作品展について →1-1と同様
 - 1-3：住宅賞について
 - ・資金調達について意見聴取、次回以降再度企画提案
 - 1-4：CPD公開方法について →次回検討
 - 1-5：支部大会、全国大会の参加費用について →予算に計上
 - 1-6：12月例会と忘年会、1月新年会について →12/8、1/26

- 2.報告事項、確認事項
 - 2-1：建築塾の報告
 - ・九州支部プルテンで執筆予定
 - ・反省点：CPD登録をしていなかった
 - 2-2：支部大会、全国大会の報告
 - ・支部大会参加者：林田 日韓合同WS、木村氏講演
 - ・全国大会参加者：森下 首里城見学、九州ナイト
 - 2-3：25年賞報告
 - ・12/18(日)現地審査 佐藤尚巳審査員長、村上晶子審査員
 - 2-4：支部活動報告
 - ・木活 支部大会時キックオフ参加、11/25(金)参加予定
 - ・LCA 11/9(水)参加予定
 - ・災害対策会議 次回も参加予定

- 3.その他
 - ・10/29(土)くまもとアートポリスシンポジウム モクカツ
原田コーディネーター、林田プレゼン
熊本県のHPに各プレゼンターのプレゼンシート公開中

- 4.CPD 11月にCPD実施予定
- 5.閉会 20：15

鹿児島大学前期合同講評会・講演会 10/1

鹿児島地域会では例年、鹿児島大学との共催で合同講評会、講演会を実施しています。

本年度は講師として2021年度JIA新人賞を受賞されたコンマー級建築士事務所の神田篤宏氏、佐野もも氏に登壇いただきました。

合同講評会では2年生、3年生の作品をJIA会員と共に講評をいただき、講演会では「多義的に重なる場所をつくる」というテーマで、「サクラと住宅」作品を中心に各プロジェクトの詳細をレクチャーしていただきました。

その後、天文館にて人数を限定した懇親会を行い、翌日は鯉坂会員による案内で知覧麓など見学していただきました。



講評会



懇親会



お土産

鹿児島大学工学部建築学科建築学 PG

2022年 前期 合同講評会

日時
2022 10.01 Sat

会場
鹿児島大学工学部
建築学科 2F 01 教室

第1部

前編 合同講評会

13:30 ゲストクリティック紹介
13:35 2年生【住宅・オフィス】
住宅 —— 「地蔵庵のある家」
オフィス —— 「地方都市の活性化と知的生産性向上を促すワークプレイス」

14:50 休憩

15:00 3年生【美術館・集合住宅】
美術館 —— 「人とまちを繋ぐアートプレイス」
集合住宅 —— 「アクティブシニアタウンハウス」

16:30 ゲストクリティック鑑評
16:40 終了

第2部

17:00 講演家 神田篤宏 佐野もも 講演会

神田 篤宏 naohiko kamada
建築家
1975 鹿児島県大島郡大島町生まれ
1994 鹿児島大学工学部建築学科卒業
1995-1997 株式会社 建築設計事務所 comma 設立
2001- 株式会社 comma 代表取締役
2022- 株式会社 comma 代表取締役

野 もも momo sano
建築家
1978 鹿児島県大島郡大島町生まれ
1994 鹿児島大学工学部建築学科卒業
2003-2005 株式会社 comma 代表取締役
2006- comma design 代表取締役
2007- comma design 代表取締役
2022- comma design 代表取締役

comma design office

一級建築士事務所 comma

2022年10月1日 公益社団法人 日本建築学会 九州支部鹿児島地域会



講演会



懇親会

編集後記

山粧うや澄み渡る青空に秋の深さを感じる季節となりました。今回も執筆を快く受けていただいた皆様にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。オピニオンでは4年ぶりに開催された支部大会の様子を後藤さんに執筆いただきました。四半期継続されている「建築展24日韓合同学生ワークショップ」では両国の学生の思いが詰まった作品の熱量に驚き、支部大会では北福岡地域会の皆様の暖かいおもてなしで大変有意義な2日間でした。また対面で開催する意義を改めて強く感じました。この素晴らしかった支部大会と建築展を広く会員に伝え、来年以降もより活性化されつづけていければと思います。今回で6回目となる「支部長漫遊記」は感染症対策で限られた人数で7月23日北九州にて開催されました。会場の名前どおり秘密基地風なワクワクする会場でソファに腰掛け、ビール片手にアットホームな雰囲気にも包まれました。登壇者4名の自身の作品プレゼン後にかけられた支部長や先輩からの批評、激励の言葉はこれからの建築人生の糧になっていくことと思います。22回目となる建築塾は熊本阿蘇の大自然中、一泊（ほぼ徹夜）二日で開催されました。限られた時間、条件の中でしっかりしたプレゼンを行う塾生を頼もしく思います。九州で次世代を育てていく建築塾の大切さを改めて感じました。「とりせつ」では事務局の吉瀬さんと谷山さんに執筆いただきました。お二人のお人柄や事務局の空気感が伝わり、より距離感が縮まったことと思います。いつも支部を支えていただき感謝しております。新田さんに福岡地域会「まちと建築展」を紹介いただきました。大きな円卓に並ぶ20の建築模型は圧巻です。建築学生さんにたくさん来場いただき、建築の楽しさを次世代に伝えることができたことと思います。「サウナと私」を酒井さんに執筆いただき、心身リフレッシュできるサウナの魅力を教えていただきました。全国のおすすめサウナやまだまだ奥深いサ道のお話も聞いてみたいですね。後藤さん「あの頃の思い出」2015年支部長会議」で難題に向かう支部長会議の様子が伝わってきます。会議内容も気になりますがエクスカージョンや大分ナイトの楽しさも想像できます。「わさもん」では新入会員の井口さんにご自身の作品紹介も兼ねて自己紹介を執筆いただきました。これからよろしく願いいたします。今回は秋のJIA復活祭のため、少々発行に時間がかかりましたが、今後も魅力ある誌面作りに務めてまいりますので何卒よろしく願い申し上げます。

JIA九州支部 広報副委員長 有吉兼次

